公　表　理容職種　第62回大会用　　※＿＿は前回大会用資料の記述から変更しています。

第62回技能五輪全国大会「理容」職種　採点基準

１．採点項目及び配点

競技課題１　ファッションヘアカット＆カラー

主観審査

審査項目	審査細目	配点	ウェート
カット・セット	カットとセットがコンセプトシートと合致している	10	2
カラー	カラーリングがコンセプトシートと合致している	10	2
トータルバランス	トータルバランス	10	4
作業態度	競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであること	10	2

客観審査

審　査　項　目	減　点
すべての毛髪に着色できていない １割できていない＝△１点　２割＝△２点　３割以上＝△３点	△１～３点
ウィービングやスライシングなどのテクニックを用いていない	△３点
カラーが皮膚（頭皮以外）に付着している １箇所＝△１点　２箇所＝△２点　３箇所以上＝△３点	△１～３点
刈り毛が付着している 顔に付着している＝△１点　耳や襟に付着している＝△１点	△１～２点
薬剤に無駄がある 多量＝△２点　少量＝△１点	△１～２点
競技終了時に作業エリアの清掃が終了していない	△１点
マネキンが人間と同様に扱われていない	△３点

不安全行動に対する減点

減　点　項　目	減　点
ケガへの対策（絆創膏の用意程度）が出来ていない	△１点
薬液使用時および水洗時にグローブを装着せずに競技を行った	△１点

審査基準

１．カットとセットがコンセプトシートと合致しているかを見る。
２．カラーリングがコンセプトシートと合致しているかを見る。
３．トータルバランスが良いかを見る。
４．時代性を取り入れたファッショナブルなスタイルであるかを見る。
５．すべての毛髪に着色しているかを見る。
６．ウィービング、スライシング、グラデーションなどのカラーリングテクニックを用いているかを見る。
７．競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであるかを見る。
８．薬剤に無駄がないかを見る。
９．マネキンが人間と同様に扱われているかを見る。

公　表　理容職種　第62回大会用　　※＿＿は前回大会用資料の記述から変更しています。

競技課題２　写真とテイストに合わせたパーマスタイル

主観審査

審査項目	審査細目	配点	ウェート
カット・セット	写真と同様のデザインがテイストに合わせてニュアンスチェンジできているか	10	２
パーマ	テイストに合わせた流れや動きが表現されているか	10	２
トータルバランス	トータルバランス	10	４
作業態度	競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであること	10	２

客観審査

審　査　項　目	減　点
ロッドの跡がついている パーマ部分の１／３についている＝△１点 パーマ部分の２／３についている＝△２点 パーマ部分のすべてについている＝△３点	△１～３点
輪ゴムの跡がついている パーマ部分の１／３についている＝△１点 パーマ部分の２／３についている＝△２点 パーマ部分のすべてについている＝△３点	△１～３点
刈り毛が付着している 顔に付着している＝△１点　耳や襟に付着している＝△１点	△１～２点
競技終了時に作業エリアの清掃が終了していない	△１点
マネキンが人間と同様に扱われていない	△３点

不安全行動に対する減点

減　点　項　目	減　点
ケガへの対策（絆創膏の用意程度）が出来ていない	△１点
薬液使用時および水洗時にグローブを装着せずに競技を行った	△１点

審査基準

１．写真に対し、よく表現されているかを見る。

２．テイストをよく理解し、ニュアンスチェンジできているかを見る。

３．正面からの写真に合わせたファッショナブルでバランスの良いカット、スタイリングがなされているかを見る。

４．フィンガーセットによる美しいウェーブ・カール表現が出来ているかを見る。

５．トータルバランスが良いかを見る。

６．競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであるかを見る。

７．マネキンが人間と同様に扱われているかを見る。

公　表　理容職種　第62回大会用　　※＿＿は前回大会用資料の記述から変更しています。

競技課題３　クラシカルバックバリエーションヘア

主観審査

審査項目	審査細目	配点	ウェート
カット・セット	カットとセットの全体的印象	10	２
カラー	カラーリングの全体的印象	10	２
トータルバランス	トータルバランス	10	４
作業態度	競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであること	10	２

客観審査

審　査　項　目	減　点
カラーが皮膚（頭皮以外）に付着している １箇所＝△１点　２箇所＝△２点　３箇所以上＝△３点	△１～３点
ネックラインにシャープさがない ネックラインがゆがんでいる＝△１点　ネックラインがついていない＝△２点	△１～２点
後頭下部に色彩がない	△１点
刈り毛が付着している 顔に付着している＝△１点　耳や襟に付着している＝△１点	△１～２点
薬剤に無駄がある 多量＝△２点　少量＝△１点	△１～２点
競技終了時に作業エリアの清掃が終了していない	△１点
マネキンが人間と同様に扱われていない	△３点

不安全行動に対する減点

減　点　項　目	減　点
ケガへの対策（絆創膏の用意程度）が出来ていない	△１点
薬液使用時および水洗時にグローブを装着せずに競技を行った	△１点

審査基準

１．襟足とサイドに伝統的なテーパーをつけ、毛量を段階的に減らしているかを見る。

２．クラシカルカットがされているかを見る。

３．トータルバランスが良いかを見る。

４．自毛以外の３色以上のカラーがあるかを見る。

５．競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであるかを見る。

６．薬剤に無駄がないかを見る。

７．マネキンが人間と同様に扱われているかを見る。

公　表　理容職種　第62回大会用　　※＿＿は前回大会用資料の記述から変更しています。

競技課題４　スタイルチェンジフェードカット＆ホイルワーク（顧客の要望）

主観審査

審査項目	審査細目	配点	ウェート
カット	要望に合わせたカットの全体的印象	10	２
カラー	要望に合わせたホイルデザインとカラーデザイン	10	２
トータルバランス	トータルバランス	10	４
作業態度	競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであること	10	２

客観審査

審　査　項　目	減　点
ホイルの枚数が規定の枚数に達していない １枚＝△１点　２枚以上＝△２点	△１～２点
ホイルワーク以外のカラーデザインが施されていない	△１点
刈り上げ部分にロッドの跡がついている 刈り上げ部分の１／３についている＝△１点 刈り上げ部分の２／３についている＝△２点 刈り上げ部分のすべてについている＝△３点	△１～３点
刈り毛が付着している 顔に付着している＝△１点　耳や襟に付着している＝△１点	△１～２点
薬剤に無駄がある 多量＝△２点　少量＝△１点	△１～２点
競技終了時に作業エリアの清掃が終了していない	△１点
マネキンが人間と同様に扱われていない	△３点

不安全行動に対する減点

減　点　項　目	減　点
ケガへの対策（絆創膏の用意程度）が出来ていない	△１点
薬液使用時および水洗時にグローブを装着せずに競技を行った	△１点

審査基準

１．ホイルの数が指定された枚数以上であることを見る。

２．ホイルワーク以外のカラーデザインが施されているかを見る。

３．刈り上げ部分にロッドの跡がついていないかを見る。

４．要望に合わせたカットスタイルであるかを見る。

５．要望に合わせたセットであるかを見る。

６．トータルバランスが良いかを見る。

７．競技時間中の整理整頓および作業所作がきれいであるかを見る。

８．薬剤に無駄がないかを見る。

９．マネキンが人間と同様に扱われているかを見る。

公　表　理容職種　第62回大会用　　※＿＿は前回大会用資料の記述から変更しています。

競技課題のウェートのかけ方

競　技　課　題	ｳｪｰﾄﾊﾞﾗﾝｽ
競技課題１　ファッションヘアカット&カラー	0.3
競技課題２　写真とテイストに合わせたパーマスタイル	0.2
競技課題３　クラシカルバックバリエーションヘア	0.3
競技課題４　スタイルチェンジ フェードカット&ホイルワーク（顧客の要望）	0.2

２．採点方法

(1)主観審査の方法

採点は下記のとおり審査項目ごとに10 点満点制とし、所定の審査表により行う。

(参考)

10	Perfect	完璧	5	Weak	やや劣る
9	Excellent	すばらしい	4	Insufficient	不十分
8	Very good	非常に良い	3	Bad	悪い
7	Good	良い	2	Very bad	非常に劣る
6	Medium	まあまあ普通	1		

・最高点の10点は審査項目ごとに必ず１つつけ、９点以下は同点があってもよい。

・得点数が同点の場合は、競技委員主査の採点表の得点数でその順位を決定する。

・競技委員主査の採点表で同点の場合は、主査の採点表で優先する競技課題の得点差で決定する。
優先順位は次のとおり

第一優先：競技課題３　クラシカルバック バリエーションヘア

第二優先：競技課題１　ファッションヘアカット&カラー

第三優先：競技課題２　写真とテイストに合わせたパーマスタイル

第四優先：競技課題４　スタイルチェンジ フェードカット&ホイルワーク（顧客の要望）

(2)客観審査の方法

客観審査は減点方式で行う。

減点数は各競技委員の判断ではなく、全競技委員の確認のもとに決定し、各課題の主観審査の総合得点（40 点満点）から減点される。

(3)作業時間採点の方法

各競技課題に定められた作業時間を超えた場合、採点を行わない。

(4)作業態度採点の方法

競技時間中の作業の手際の良さ(仕事の効率や整理整頓、清掃等)で、競技審査員の合議で加点し、また危険行為や、他の選手への妨害などあった場合も競技審査員の合議で減点する。